

なきごえ



1982

6

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

猛禽と私

川田 健



もともと鳥類には、あんまり興味を持たないほうである。だから担当区域にアメリカイヌワシのつがいがいても、そして飛翔檻のなかに大

きな巣台があっても、別に注意を払わなかった。この国では日本よりも鷹狩りが盛んなのだが、どうして猛禽に熱中できるのか、理解できなかった。1970年代の初め、カンサス州トペカの動物園で飼育係をやっていた頃のことである。それでも春先には、指示に従ってトラックを駆って公園内の枯枝を集め、どきりと檻の中にほうりこんだ。

するとワシたちは枝を使ってせっせと営巣にかかる。ある日、巣の中に卵がひとつ産み落された。卵は2個から3個にふえ、抱卵が始まる。とたんに面白くなった。と同時に、寝ても覚めてもワシのことが頭を離れなくなった。

カンサスあたりでは春から夏にかけてトルネード(竜巻)が発生しやすく、天候の激変はごく普通のことであり、一天にわかにかき曇り、豪雨を伴った物凄い嵐に叩かれることが多い。それでも親鳥はぴたりと巣の中に伏して、身じろぎもしない。私は檻のそばに立ち、拳骨をふるって嵐を呪い、しっかりやれと親鳥に声援を送ったりした。そんなことをしても、こっちの意が先方に通じるわけではないのだが。

なきごえ6月号もくじ

動物と私	2
赤ちゃん誕生	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
大阪府下の猛禽類	6・7・8・9
獣医室から ⑩	10
動物園ニュース	11

やがてひながふ化したとき、私はえらく興奮してしまった。アメリカイヌワシの飼育下での繁殖成功は、世界最初のことであった。のちに私は、全米動物園水族館協会と飼育係協会から繁殖賞を受賞した。

猛禽は人間に対して絶対に媚びを売らない。甘えたり、愛情を求めたりしないところに、私は魅せられた。このつがいにしても、オスは神経質で小心翼翼としているが、メスは気性が荒く、巣に近づこうものなら猛烈に攻撃してくる。その激しさに、私は一層ひきつけられた。

その後インディアナポリス動物園に転職した。ここにはアカオノスリが2羽いた。都合のよいことにオスとメスである。私はまた凝り始め、えさの種類、檻の構造、営巣期、抱卵期、育雛期と段階を追って繁殖計画をたてた。よい個体に恵まれたため1975年には3羽のひながふ化し、成育した。アカオノスリはごくありふれた種類で、野外では飛んでいるのをよく見かけるが、今でも、遠い親類にでも出合ったようななつかしさを覚える。

オクラホマ州タルサの動物園に移ってからは、猛禽に対する興味を次第に失っていった。1981年には、ウィスコンシン州ミルウォーキーの動物園に勤めるようになった。着任後間もなく、この州ではメンフクロウが絶滅寸前と聞いて、私はまた興味をかきたてられた。目下、州天然資源局との協同でメンフクロウの増殖放鳥実験を立案中である。動物園内には繁殖用の檻も完成した。ウィスコンシン大学の大学院にも声をかけて、放鳥後の追跡研究を学生によびかけている。当分、猛禽とのご縁が続きそうである。

(ウィスコンシン州ミルウォーキー動物園飼育課長)

表紙の写真説明

“アンデスコンドル”

4月30日にオープンした新しい猛禽舎に、引越したコンドル。新居で、待望の2世誕生が期待できそうです。

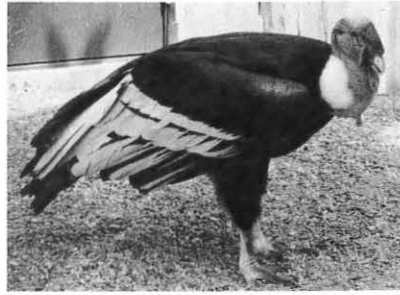
(撮影：農本武志)



“赤ちゃん誕生”

グラントシマウマの雌の赤ちゃんが、去る5月3日(憲法記念日)に実に6年ぶりの誕生!!その名もノリコと名づけられました。ノリコは、現在4才になるキャンディーの初産の子です。母親の見守る中、皆さんに今日も愛嬌をふりまっています。

(飼育課：森本委利)



← アンデス・コンドル
(コンドル科)
大空を飛ぶ鳥としては世界一南米アンデス山脈に生息します。

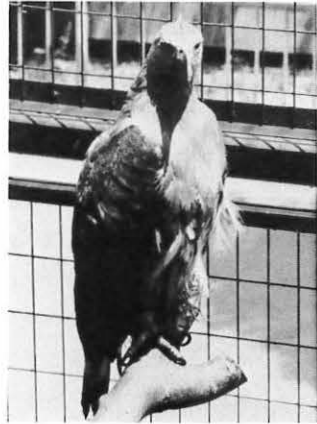
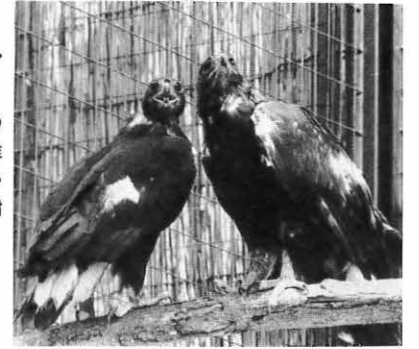
動物園グラフ

“新猛禽舎の鳥たち”

手狭だった旧猛禽舎(270㎡)を財団法人「宝くじ協会」のご厚意により新しく大きな猛禽舎(411㎡)に改築し、おかげで猛禽の種類も10種となりました。(撮影:中川 哲 男)

イヌワシ
(ワシタカ科) →

数少なくなった日本の大型猛禽で国内での推定生息は200羽程といわれ、天然記念物に指定されています。

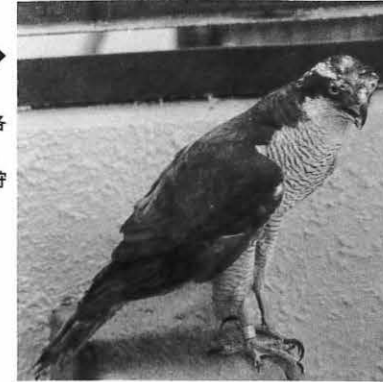


← ハイガシラウミワシ
(ワシタカ科)
ウミワシの仲間である海岸の岩壁に営巣し、魚を常食とします。



← ソウゲンワシ
(ワシタカ科)
東欧からシベリ南部、南アジアCに好んで生息します。

オオタカ
(タカ科) →
北海以外の日本の各地から山帯に生息し、飼いならされてタカ狩に使用されます。



← オジロワシ
(ワシタカ科)
大型のワシでカラフト、千島、北海道に生息し、天然記念物に指定されています。魚の他、ノウサギ、カモ等も捕食します。



← カラカラ
(ハヤブサ科)
北米の南部から南米にかけて生息します。体をのけぞって鳴く姿は愛嬌があります。



← ワシミズク
(フクロウ目フクロウ科)
東欧からアジア、北アフリカ、アラビアまで広く生息し、ワシのようにするどい大きな爪と嘴で獲物をとる大型のフクロウの仲間です。

トビ
(ワシタカ科) →
中型の猛禽で留鳥として年中日本で見かけます。順応性が強く、生きたものから腐肉まであさり生活力も旺盛です。



← サシバ
(ワシタカ科)
小型の猛禽で4~6月に南方より飛来し晩秋に群を作って南方へ渡ります。本州以南で生息します。



4・5月の動物園日記

- 4 / 21. タンチョウが今年初めての産卵をしました。
- 4 / 23. イヌワシ2羽、ソウゲンワシ1羽が入園しました。
タンチョウの1羽が急に跛行を示しはじめたので治療を行いました。
- 4 / 24. タンチョウが2卵目を産みました。
春の動物園祭が始まりました。
- 4 / 25. 衰弱したユリカモメを1羽保護しました。
- 4 / 26. ノウサギを1頭保護しました。
ヒヨドリ3羽の放鳥前飛翔訓練を始めまし

- た。
- 4 / 27. 定例飼育研究会が行なわれました。
- 4 / 28. オグロワラビーの子が育児のうより、初めて外へ出ました。
新猛禽舎への猛禽類の鳥たちをコンドル一番を除いて全て移動しました。
- 4 / 29. 春の動物園まつりにちなんで、園内にて無料動物相談が行なわれました。
- 4 / 30. 新猛禽舎贈呈式が開催され、一般公開されました。
- 5 / 1. ペンギン全羽にビタミンの補給を行ないました。

- 5 / 2. ワライカワセミが抱卵を始めました。
エミューのヒナに左足の跛行がみられたので治療を行ないました。
- 5 / 3. ブラックバックの赤ちゃんが1頭生まれました。
トラフズクの雄の展示を開始しました。
シマウマの雌の赤ちゃんが1頭生まれました。
- 5 / 4. ワシミズクの雄が肝障害による衰弱のため溺死しました。
- 5 / 5. チンパンジーの雌のヨウ子が同居中のチンパンジー雌のサクラと闘争し陰部に裂傷を

- 負いましたので、すぐに治療しました。
本日で春の動物園まつりが終わりました。
- 5 / 6. サイの妊娠鑑定を行ないましたが陰性でした。
- 5 / 7. カバのフトシと、ナツコの間に去年生まれた子が、入場者の投票により“つよし”と決まりました。
- 5 / 9. マンドリルの雌が右口唇部を切ったので、すぐに縫合手術を行ない入院させました。
- 5 / 10. コウノトリの雌が死亡しました。
バードウィークに因んで野鳥展が始まりました。

大阪府下の猛禽類

にしがいと
西垣外 正行

一般に猛禽とは、ワシタカ類やフクロウ類のような、主として生きた鳥獣を殺して食べる肉食鳥のことを猛禽類と呼んでいます。

モズも自体にくらべて割合に大形の鳥や獣を捕えて食べ、口ばしもタカとそっくりで、性質も荒いので猛禽の仲間に入れるべきですが、脚は普通の小鳥と同じで弱々しい。造化の神がタカの類を作ろうとして出来が小さ過ぎたので小鳥にされたのでしょう。

又カラス、サギ、カモメの類も、鳥獣の肉を食べますが、自体よりはるかに小さい獲物を丸のみにするか、死肉をついばむ程度で、口ばしや脚も細長く折れそうで弱々しい。

要するに、猛禽類の特徴として、ワシタカ類、フクロウ類に共通して言えることは、食性に適応して
① 口ばしが短かくて強く、上くちばしの先端は鋭く鉤状に曲っていること——これはのみこめる大きさに食物を引き裂くためです。口ばしの先が肉にくい込むようにかみつき、それから獲物にしっかりと突き刺した両脚の爪であとへ引っ張る。そうして肉を一切れ引き裂きそれをのみ込む。

② 脚が一般に丈夫で爪は長く鋭く曲っていること——これは一般の鳥は、脚は単に歩いたり、はねたり、または休むときに体を支えたりするものに過ぎない。しかしほとんどのワシタカ類、フクロウ類はもう一つの重要な役割を進化させてきた。この場合、脚は獲物を殺すのに非常に有効な武器となる。

③ 目が大きく両眼は他の鳥にくらべて顔の前面について、両眼視できること——これは他の鳥と違い、全体の視野は狭いが、両眼視出来る範囲は広い。このため動きまわる獲物をしっかりと見すえ正確に距離をはかって襲いかかることが出来るのです。又目が実によい目をしている。約100mはなれたバッタを見つけた例がある。そのバッタを土の上においても、人間には40mはなれると見えなかったという。

④ 雌は雄より普通大きいこと——なぜ雌が大きいのか、色々の学説があるが現在のところ明らかでない。

⑤ 一般に雌雄同色で、羽毛が褐色な、ごく地味な色を持っていること——擬態は殆んど外敵から身を守るための常に保護色の効果で守られる——順

隠匿色に対して、ワシタカ類、フクロウ類のような最強の肉食鳥でも、獲物を攻撃するために、自体を目立たぬようにする抗隠匿色——攻撃保護色をもっているのです。

以上のほかに外形上いくつか似ているところ、たとえば、上の口ばしの基部が蠟膜でおおわれていること、脚にはしばしば羽毛が生えていること。ペリットと言って、餌を一度まるのみにし、後に不消化物を玉のようにしてはき出すことなどです。

さて、ワシタカ類とフクロウ類は、以前は類縁が近いものと思われていた。今でも一般に猛禽類と言う言葉で使われ、まとめて呼ぶのはその考えなのです。実際はワシタカ類とフクロウ類は、いくつもの解剖上の相違点があって、分類学上は、かなりはなれた位置におかれている。

猛禽類の一般的な定義はこのぐらにして、世界中には、どの位の種類がいるのか、最新の世界鳥類目録で調べると、ワシタカ類は281種、フクロウ類は136種となる。次に日本では、どうであるか、第五改訂版日本鳥類目録によると、ワシタカ類は27種、フクロウ類は10種で、この中にはワシミミズクのように確実な記録のないものや、カタジロワシ、カラフトワシなど、1回か2回の記録しかない迷鳥も含まれている。では、私たちの住む大阪府ではどうなのか。1973年「大阪の野鳥」によると、ワシタカ類が15種、フクロウ類6種が記録されている。更に、大阪府と隣接の奈良、兵庫県を含めると、イヌワシが一種追加される。そこで私たち南大阪猛禽研究グループが過去20年間で、大阪府下で観察した猛禽類を一種一種簡単に述べてみましょう。

1. ミサゴ ワシタカ目ミサゴ科(留鳥)

大阪湾の埋立が、大阪市南港から南の泉南方面へと拡大される1960年代初期から数が減り初め、現今では全く姿を消してしまった。20年前までは海岸から少し内陸の低山帯松林で繁殖し、年中池や海岸であの豪快な大きな魚(海ではボラ)をとるシーンがよく見られました。悲しいことです。

2. トビ ワシタカ科(留鳥)

一般の人々によく親しまれている素直なこの鳥も、都市化の波で、現今は姿を見るのは珍しくなりました。府下の南端、泉南、岬町方面では、磯や海辺近くの山林には、まだ数多く見られます。この鳥は、広く知られている関係で、ワシとタカの基準にされます。つまりこの鳥より大きいものはワシ、小さい

ものはタカと呼ぶようです。また、野外でワシタカの種の識別にトビを基準にすると便利です。つまりトビより大きければクマタカ、イヌワシ。小さければサシバ、オオタカ。同じ位かやや小さければハチクマ、ノスリといった具合です。だからトビの飛翔中の翼と尾羽のパターン、全体の羽毛の色柄をよく頭に入れておくことが大切です。

3. サシバ ワシタカ科(夏鳥)



山野はまだ冬枯れの寒々しいお彼岸の頃、早くもこの鳥が渡って来ます。低山帯の松林で茶殖し、10月中旬頃渡去します。

「キンミー」と、ワシタカ類には珍しくよく鳴きます。開発で繁殖地が破壊され、数がめっきり減りましたが、まだまだ松林が広くある山林にはよく姿が見られます。本種は大空を圏翔している時、太陽に当たると翼や尾羽が、うすくすけて見えるので、すぐに本種である事がわかります。

4. ハチクマ ワシタカ科(夏鳥)

新緑に包まれる5月初めに渡って来ます。府下では前記のトビ、サシバに次いで多く、



府下では主に低山松林で繁殖します。最近宅地造成で繁殖地が奪われ、奥地へと追い込まれている。この鳥は名前通り、ハチを常食にしている関係で、口ばし、足の爪はニワトリのようでタカらしくありません。トビ位の大ききで羽毛もよく似ています。飛んでいる時の見分け方は尾羽が決め手で、トビは中央部で凹んでいますが、本種は丸く凸尾になっている。又、トビの翼の先端は少し内側に曲っていますが、本種は一直線に伸びています。又、ト

ビよりクビが少し長く見えます。又、一声鳴くと百見一聞で、トビはピーヒョロロが、この鳥はピーヨ、ピーヨと鳴きます。

5. ツミ ワシタカ科(夏鳥)



ハトより小さく、日本最小の鳥。留鳥か夏鳥かきめにくい鳥ですが、夏の方が目につく事が多いので夏鳥に入れるべきでしょう。常に林内で身動きせず獲物の来るのを待ち伏せしているの、この鳥を見つけるのは至難の業です。ところが4月から7月にかけて、林内でキイキ、キイキキと割合よく鳴きますので、声をたよりにこの鳥の発見につとめます。小鳥を追って、木々の間を縫う早さは時速100kmを越え、左右上下に直角に身をかわすことが出来ます。大阪府下でもかなりのペアが繁殖し、毎年1、2巣発見しています。

2. ハイタカ ワシタカ科

前記のツミとは反対に、夏より冬の方が見られる機会が多いです。稀に夏に観察されるので繁殖の可能性はありますが、近畿一円では、まだ繁殖の記録がないようです。

7. オオタカ ワシタカ科

ツミ、ハイタカと並んで同じ属にこのオオタカがいる。精悍な顔だち、ほっそりした姿体、落ち着いた高尚な色模様、見ていて惚れ惚れするのがこの鳥であろう。まさに森林の中のタカで、複雑にこみ入った森を好み、姿を見ることは容易でない。大阪府下でも以前から見る機会があり、私達グループが長年巣を見つけたいたタカの一つであったが、なかなか果たされなかった。ところが遂に1979年6月10日、河内長野市天野町で、小島幸彦氏により発見された。

8. ノスリ ワシタカ科(冬鳥)

頭が比較的大きく、ずんぐり太った力強い感じで全体のバランスのよさは他に類がない。秋から冬にかけて、広々した農耕地で生活しているが、大阪府下では、広大な平野部がないため、すべて山地の開

北
地

けた秃地や、視界のきく尾根、山頂近くで稀に見ることがある。

9. クマタカ ワシタカ科 (留鳥)



深い谷を眼下に、四方遠くの山々が見えるそのような場所に座り込んで、1日のんびり目をそらさずに四方を監視して下さい。必らずこの鳥が谷のどこからか湧き上がってくる。運がよければ眼の前を飛んでくれるでしょう。ゆうゆうと弧を描いて帆翔する姿、形は丁度奴凧のようである。大阪府下最大のタカである。英名で Hawk Eagle と適切な名前がつけられている通り、この鳥の見方、考え方で、ワシともタカとも言えるでしょう。私たちワシタカ研究グループが大阪南部で、この鳥を20年近く調査した結果では、南部だけで10ペア位住んでいます。北部も合わせると大阪府下全域には、20から30ペアが生息しているでしょう。

10. チュウヒ ワシタカ科 (冬鳥)

1960年以前には、冬季大阪府下の大和川河口、淀川河口部の水辺のアシ原、草原に必らず2・3個体対岸にも1個体と低空飛翔している姿をよく見かけましたが、現在では大阪府下では幻の鳥となってしまった。私はこの鳥が好きで、よく見に出かけた。丁度逆八文字のように、両翼をピンと真直ぐ斜め上にあげ、冬枯れの原をすれすれに、ゆっくり飛ぶ風景が好きであった。この鳥を数羽捕えたことがあるが、口を開けると大きく、目が人間のように前面につき、顔盤があって、丁度フクロウ類と相通じるものがあります。

11. ハヤブサ ハヤブサ科 (留鳥)

前記のチュウヒ同様、1960年頃まで、秋から冬、都会の高層ビルの屋上、ガスタンクの高所、広々した農耕地、海辺、丘陵によくある鉄塔の先端などに止まっているのを、時々見る機会がありましたが、今は皆無となりました。

12. チョウゲンボウ ハヤブサ科 (冬鳥)

前記のハヤブサに比べ、府下では、現在でも秋・冬期、広々した農耕地、埋立地、低山帯秃地、淀川河川敷など、稀に見る機会がある。ハト位の細っそりとしたスマートなタカで、低空滑翔や、ホバリング(空中停止飛翔)・急降下攻撃など、空中で色々な妙技飛行を見せてくれる。

その他、府下では、ワシタカ類にコチョゲンボウ、ハイイロチュウヒ、ケアシノスリなどの観察記録があります。

さて、昼の猛禽がワシタカ類なら、夜の猛禽はフクロウ類であります。食性が同じということで、ワシタカ類と共通する所も多いことは前に述べましたが、生活が昼間と夜間と正反対のために、夜行性に適応した、フクロウ類独特のからだの構造を進化させて来ました。特に目と耳の感覚器官は、フクロウ類の本領を発揮するすばらしい働きをしている。大阪府下ではフクロウ、アオバズク、コミミズク、トラフズク、オオコノハズク、コノハズクの6種が記録されている。

1. フクロウ フクロウ科 (留鳥)



普通、頭部に耳の形をした羽毛が立っているのをミミズク、何もなく円い頭をしているのをフクロウと呼んでいる。この呼び方は例外はあるが、学問的な呼び名と一致している。例えば羽角(頭部にある耳の形をした羽毛)がないのにアオバズクという呼び名があるかと思うと、立派な羽角が立っているのにシマフクロウという種類もある。しかし、呼び名として、フクロウとミミズクの分け方は、当らずとも遠からずと言えるでしょう。さてフクロウを細かく分けると日本には4亜種が生息し、大阪府はキュウシュウフクロウに属する。巨木が林々と茂る森や雑木林、竹林の密生したところ、又松林などにも住む。3月の初め巨木の樹洞、タカのご巣に産卵する。又私達研究グループの一員、故桶谷和三氏は樹

洞のない雑木林、松林などでは、土中の天然のほら穴(直径30cm、奥行50cmの円筒状)を利用する事を数例発見した。

2. アオバズク フクロウ科 (夏鳥)



多くの人が、それとは気付かずにて、しかも最も普通にフクロウと言われているのはこのアオバズクではないだろうか。それというのも、青葉がそろそろ茂る5月始めに渡って来て、あの「ホー、ホー」といかにも淋しげな鳴き声は、誰も聞いたことがあるはずである。都会地でも、大樹が数本あるような所なら住みつく。この鳥は純然たる夏鳥ですが、1964年1月5日、私はあるハンターからこの鳥の死体を入手し、大阪府下では一部越冬している事をはじめ確認した。

3. コミミズク フクロウ科 (冬鳥)



堺市の中心部から東へ2km程行くと、立派な大泉緑地公園がある。今から16年程前は、広々した農耕地であったのを市が買い上げ、数年間放置されていた。農耕地はみるみる草深い草原に一変し、色々な草原、平野の鳥が住みついた。このコミミズクも見のがす筈がない。毎冬群をなして住みついたのである。昭和44年の冬の事であった。この鳥を呼び寄せるためには、最小1キロ平方の土地を買い上げ、自然のなすまま放置しておけばいい。やがて草原となり、この鳥が冬に渡ってくるだろうと思うことがあ

る。

4. トラフズク フクロウ科 (冬鳥)

小さな森や公園、竹林、小松林などに数羽群がっていることがある。大阪府では、平野区瓜破霊園の樹木に毎年冬渡来することが知られている。

私は湿地の点在する農耕地で、夜間杭に止っているのをコミミズクと信じ、捕獲して見ると、トラフズクで驚いた事がある。昼はこんもりとした森で休眠し、日没過ぎて薄暗くなる頃、一斉に森を離れ農耕地や草原へ飛び去って行くのであろう。

冬になると私は何度か、月夜にこの鳥を見に農耕地や草原を車で走ることがある。棒杭や枯木に注意していると、時々杭の先端がふくらんで鳥の形をしたシルエットを見つける事がある。コミミかトラフかどちらかである。車を降り1m位近づいても棒のように垂直の姿勢のまま身動きしない。両者ともすばらしい擬態の持ち主であった。

5. オオコノハズク フクロウ科 (冬鳥)



大阪府下では、冬季に渡って来るが、数が極めて少ない。鳥を探し求めて40年、ただの一回、私の家から2km程離れた竹林で見たに過ぎない。羽曳野市に住む私の鳥友で、彼の自宅の庭の大木に一度飛来し、写真撮影に成功した。これはその写真である。

6. コノハズク フクロウ科

1966年5月5日のこと、日が沈みあたりが薄暗くなる頃、大和葛城山、中腹の広大な杉の植林の奥深く鳥友と私達複数でこの鳥の鳴き声を数分間じっくりと聞入った。渡りの途中と思える。

(南大阪野鳥研究会々長)

写真提供：奥野一男氏、小海途銀次郎氏

獣医室から ③〇

獣医師泣かせの動物たち

動物を治療する……これは獣医師の第一の仕事です。ところでこの治療をするのも、投薬や注射、手術などが簡単にできるものとそうでないものがあります。今回は我々獣医陣が治療をする際に頭を悩ます動物についてお話ししましょう。

全身これ針の山といった感じのヤマアラシは、捕食者の肉食獣も恐れをなして敬遠するほどその針の威力はすごいものです。へたに怒らせようものなら、針を逆立ててシャーシャーと音をたてながらバックしてくるだけに、我々も治療の際は決死の覚悟？が必要です。

捕獲網で捕えても網の目から針が突きでますし、カナダヤマアラシですと小さな針が網に一杯つき刺さり、あとで網から針を抜くのが一苦勞です。手のかかる



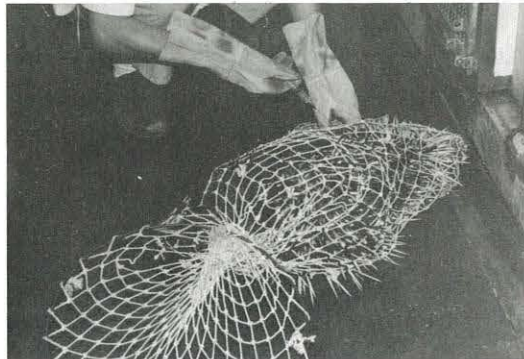
トゲの固りに注射

治療の場合、網で捕えた後、皮手袋をして足に麻酔の注射をします。ところがヤマアラシの皮ふは大変かたく、注射もなかなか大変です。力まかせに注射しようものならヤマアラシの針が皮手袋をとおして突き刺さり、反対に注射されてしまいそうです。麻酔が効いてしまえばこっちのものですが、それにしてもヤマアラシの治療は我々に常にスリルを与えてくれ、治療の終わった後はなぜかドッと疲れます。

水中を泳ぐアシカはまず捕獲が大変です。アシカの池の水を全部ぬいた後、干あがった池の底で網をかけて捕えますが、陸上でもその動きはなかなか素早く、しかも体が泳ぐのに適した流線形をしておりスルスルと網をくぐり抜けてしまいます。やっと捕えても手足が鰭状になっているため、うまくつかむことができず、保定しておくのも一苦勞です。ヤマアラシのように簡単に麻酔できれば多くの人手をわずらわさなくてすむのですが、アシカは麻酔の処置のしにくい動物のため、つかみどころのない体を何とか力づくで押えこんでおかねばなりません。

それにしても、重い網を持って追いかけてまわし、力づくで押えこんで……我々も疲れますが、アシカにとってもはなはだ迷惑なことでしょう。

猛獣の牙にも耐えられる厚くかたい皮ふでおおわれたサイ……この動物も時には治療に頭を悩ます動物です。餌に薬を混ぜて与えたり、体に薬剤を塗布するだけぐらいの病気でしたら心配はいらないのですが、どうしても注射しなければいけないような場



麻酔すればこっちのもの

合ですとなかなかやっかいです。注射量が少ければ専用のピストルやライフルで注射できますが、量が多ければそうもいきません。以前、起立不能に陥った当園のクロサイに注射したことがありますが、動物用（直径2ミリ）の一番太い注射針を用いても、曲がったり折れたりでなかなか思うように注射できませんでした。もちろん皮ふの柔かそうな尾の付根や耳、首などに注射を試みるのですが、相手も暴れますし、3回に1回位の割合で針が折れたことを覚えています。それ以来、サイの治療には注射の必要がないことを願っています。

一見治療のむずかしそうなライオンやトラなどは逆にそう手間がかかりません。というのも手術などしなければならぬようでしたら、麻酔銃で麻酔できるだけに、直接捕獲しなければならない動物に比べ治療がしやすいといえます。

動物の病気は治療する我々の身になって発症するはずもなく、常に治療の研究、工夫に励まねばならないのは言うまでもありません。

(飼育課：宮下 実)

すてき満喫 近鉄クレジットカード

- 全国の近鉄流通グループ・都ホテルチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。



近鉄百貨店

お申込み・お問合せは 各店クレジットセンター
 アベノ店 06(624)1111・上本町店 06(779)1231
 東大阪店 06(783)1111・奈良店 0742(33)1111

近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・枚方・和歌山・東京(吉祥寺)・四日市・松阪・伊勢・岐阜・徳山・別府

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社 ☆ 社団法人 大阪市天王寺動物園協会
 (06) 541-3112 (06) 771-0201

動植物の生態をわかりやすく解いた楽しい幼児図鑑

こどものずかん

この図鑑は正確な絵と生態写真を使って幼児の観察力を養い育て、動植物への理解を深めるようにつくられています。カラーページには身近に見られる動植物を取り上げ、2色ページには観察や飼育・栽培をするときの心構えと要領がのっています。最寄の有名書店、百貨店で求めください。



全 10 巻

●B5判・上製本・56頁
各巻定価650円

- ① みちかな どうぶつ
- ② のやまの むし
- ③ にわや かだんの はな
- ④ うみの いきもの
- ⑤ やさいと くだもの
- ⑥ どうぶつえん
- ⑦ のやまの くさき
- ⑧ みずへの いきもの
- ⑨ のやまの とり
- ⑩ きせつと しぜん

ひかりのくに株式会社

〒543 大阪市天王寺区上本町3-2
☎(06)768-1151代表

◎ 動物のことなら あらゆることに
お役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写生会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達



自然から学ぶおもいやり

株式会社 アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-498-5656

どうぶつの しゅうは いろいろ

〒661 尼崎市額田町2番3号

ポッカ コーポレーション



ポッカ
つぶちゃん
オレンジ



ビタミンC入り

POKKA

スポーツアルカリイオン飲料

C-500

NET 250g
標準小売価格 ¥100

NET 250g
標準小売価格 ¥120

誰が押しても



ただフィルムを差し込むだけです。

自動装てん



ピント合わせはカメラまかせです。

自動焦点



次々とシャッターを押すだけです。

自動巻き上げ

撮り終ると同時に巻き戻されます。

自動巻き戻し

フジカオート7 デート
標準価格 49,800円
(本体47,800円/ケース2,000円)

標準価格はメーカーが希望する標準的な小売価格です

大阪市天王寺動物園協会発行
「なきごえ」発刊200号特集記念
協 賛

獣医科 (イロハ順)

岩崎橋犬猫診療所 TEL (06) 551-1323
大阪市大正区三軒家西1-7-18
辻 栄重

奥村獣医科 TEL (06) 211-8941
大阪市南区島ノ内2-8-34
奥村 弘

高岡獣医科 TEL (06) 471-1672
大阪市西淀川区野里2-2-5
高岡 秀和

高瀬獣医科 TEL (06) 971-7927
大阪市東成区大今里4-27-25
高瀬 一行

谷町獣医科 TEL (06) 941-7693
大阪市東区谷町4-20
池尾 信一郎

鶴野獣医科病院 TEL (0722) 33-0372
堺市一条通18-8
鶴野 整傳

浦東獣医科 TEL (06) 631-3331
大阪市浪速区恵美須西3-6-11
浦東 信夫

福留獣医科 TEL (06) 322-6290
大阪市東淀川区下新庄1-11-7
福留 慶彦

藤井寺動物病院 TEL (0729) 54-5630
藤井寺市御舟町1-3
是枝 哲世

芦屋家畜病院 TEL (0797) 22-3961
芦屋市打出小槌町46
岩崎 孝泰

境川獣医科 TEL (06) 582-0252
大阪市港区市岡元町1-1-1
松村 一弥

東田獣医科 TEL (0726) 82-3297
高槻市名神町3-8
東田 和弘

.....ぼっちゃん
.....おじょうちゃん

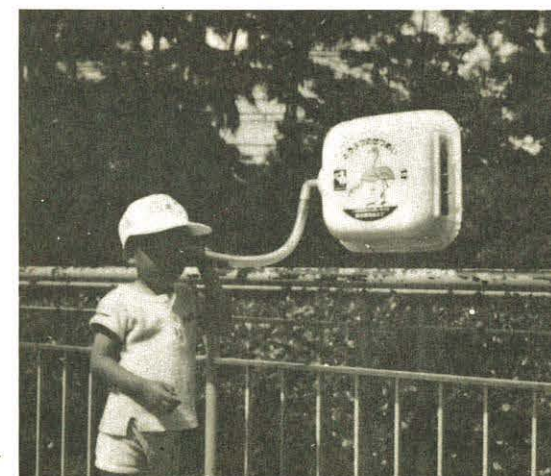
どうぶつえんへ.....
いらっしゃいませ.....
ごきゅうけいは.....
おしょくじは.....

動物園内北園

中央売店

☎ 06-771-0973

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

1回 20円

関西特機株式会社 ☆ 社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(06) 762-2333 (06) 771-0201

天王寺動物園内

南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (771) 7110番

園内での写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

動物園協会
指 定

国際航空写真株式会社

豊中市蛸池西町3丁目555 関西国際空港ビル内
大阪営業所 TEL 06-856-7444

動物園ニュース

§ 猛禽舎完成!!

日本宝くじ協会の寄付で2月19日から建設に入っていた猛禽舎が完成し、4月30日に贈呈式が行なわれました。第一勸業銀行大阪支店次長西野利男氏とミス宝くじの宮永直子さんが来園され、本市の近藤助役に目録が贈呈されました。



猛禽舎贈呈式

続いてテープカットが行なわれ、コンドル2羽が新しいケージに放鳥されました。新猛禽舎には他にイヌワシ、カラカラ、オジロワシ、ソウゲンワシ、オオタカなど10種19点が展示されました。

観客側の金網は溶接金網を使用し、従来よりたいへん見やすく、舎内も擬岩でより自然らしく巣穴が作られ、高さ広さも充分あり、困難とされていた猛禽類の繁殖が期待されます。

§ 出産ラッシュ始まる

哺乳類では3月下旬からオグロワラビーの赤ちゃんが袋から顔を出すようになり人気を集めています。母親は当園生まれで、昨年に続き2産目です。



グラントシマウマの親子

5月3日にはグラントシマウマのメスが1頭生まれました。憲法記念日にちなんで“ノリコ”と名付けられました。当園では6年ぶりの出産でもあり、また母親の“キャンディー”は1979年10月に来園したもので初産であったため心配しましたが、じょうずに子供を育てています。元気に走りまわる子供の姿をぜひ御覧下さい。

その他、4月20日にバーバリーシープ、5月3日にブラックバック、5月14日にキョン、5月16日にラマ、5月19日にニホンザル、5月20日にバカがそれぞれ生まれました。

鳥類では、キジ類が続々人工ふ化しています。5月17、20日にインドミンキジがふ化しました。このキジはインド北部に住むキジで、昨年11月に来園したペアが産卵したものです。日本の動物園では初めてふ化したものと思われるので成長が楽しみです。

また同じ17日にチャムネシャクケイが当園で初めてふ化しました。南アメリカに住むキジの仲間ですが、非常に成熟した状態でふ化したので驚かされました。

その他、先月号でお知らせしましたハイイロコクジャクやカムリウズラも次々ふ化しています。ま

たカナダガンも4羽人工ふ化しています。

自然ふ化の方も、昨年に続いて南園の日本庭園で5月20日にコブハクチョウが2羽ふ化しました。またジェンツーペンギンが5月20日、21日にふ化しました。残念ながらそれぞれ3日目と4日目に死亡しましたが、日本では初のふ化と思われます。来年こそはぜひ成功させたいものです。シュバシコウのふ化も、今年は巣台を新しくしたためか非常に順調で5月18日現在5巣で計7羽のひなが確認されています。



7年連続ふ化したタンチョウ

それぞれ34日と31日でした。これで7年連続のふ化で、13羽目のひながふ化したこととなります。

§ 春の動物園祭開催

4月25日から5月5日まで、春の動物園祭が開催されました。今年は残念なことに5月2日、3日は雨天のため中止しましたが、期間中、当園獣医師による無料動物相談、ステージでは幼稚園児によるお遊戯、手品や紙しばい、人形劇などが行なわれました。また園内5ヶ所でボランティアによる動物クイズが行なわれました。

同期間中に募集した昨年6月生まれのカバの赤ちゃんのペットネームは、4657票もの応募がありその



カバの親子

なかで70票の投票があった“ツヨシ”に決定されました。応募者のなかから抽選で天王寺区の森田ナオさんはじめ10名の方々に記念品をお贈りしました。

§ 「野鳥展」開催される

5月10日からのバードウィークにちなんで、恒例の「野鳥展」が31日まで開催されました。当園と大阪府自然保護課の共催で行なわれ、府下の野鳥生息地図、愛鳥ポスターの入選作、野鳥の生態写真などが展示されました。

現在の飼育動物数 (1982年4月30日現在)

哺乳類	101種	362点
鳥類	231種	772点
爬虫類	44種	97点
計	376種	1231点

なきごえ 昭和57年6月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

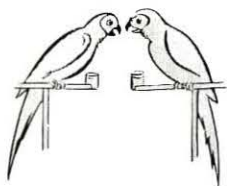
第18巻 第6号(通巻202号)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

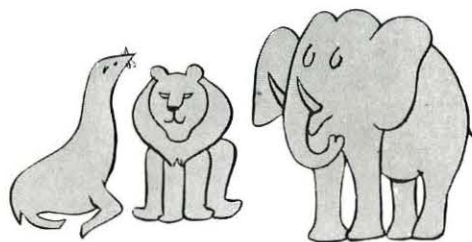
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイナップル・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信
 葺谷 文彦・農本 武志・野口 秀高・仲谷 登・小出 雅三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 総